

鴨島東中学校と鴨島第一中学校の統合に関する説明会会議録

場 所	日 時	出席者数
上浦公民館	令和7年1月26日（日） 午前9時34分～午前10時15分	15人
牛島公民館	令和7年2月 1日（土） 午前9時30分～午前11時25分	22人
森山公民館	令和7年2月 8日（土） 午前9時30分～午前11時35分	13人
吉野川市役所	令和7年2月10日（月） 午後7時～午後8時5分	15人

次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 説明
 - （1）生徒数及び学級数の推移予測
 - （2）鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会の提言
 - （3）鴨島東中学校の統合に関するアンケート結果
 - （4）統合に関する方針
 - （5）統合準備委員会の体制（案）
- 4 質疑応答
- 5 教育長あいさつ
- 6 閉会

会議の経過

事務局から説明	【すべての会場共通】 （1）生徒数及び学級数の推移予測 本年度の鴨島東中学校の生徒数は、通常学級106人・特別支援学級14人の合計120人で、2年生が1クラスとなっている。 令和9年度には、すべての学年で1クラスとなる見込みであり、令和18年度には本年度の約半数の63人になる見込みである。 鴨島東中学校と鴨島第一中学校が統合した場合の生徒数は、令和9年度では通常学級387人・特別支援学級42人の合計429人で、計13クラスになる見込みである。 両校が統合した場合、1学年3クラス以上を確保できる見込みであり、望ましい学級数を維持できていると考えている。 （2）鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会の提言 検討委員会から「鴨島東中学校は、鴨島第一中学校と統合し、生徒にとってより望
---------	---

ましい教育環境を早急に実現すること。」、また、「牛島小学校及び森山小学校は、直ちに学校再編の必要性はない。」との提言をいただいた。

また、統合に当たっての「留意事項」として、学校運営の円滑な移行に取り組むこと、できるだけ早期に方向性を示し統合すること、通学支援や通学路の安全対策についてのご意見をいただいた。

(3) 鴨島東中学校の統合に関するアンケート結果

対象者437人中234人の方から回答があり、回答率53.5%、「統合に賛成」が51.3%、「統合に反対」が28.6%、「どちらともいえない」が20.1%となった。

「賛成」の理由は、生徒数を理由とするもの、「反対」の理由は、通学距離を理由とするもの、「どちらともいえない」の理由は、通学距離や通学支援を理由とするものが最も多い結果となった。

(4) 統合に関する方針

「鴨島東中学校は、鴨島第一中学校と統合する。」、「統合の時期は、令和9年4月1日」、「統合校の位置は、現在の鴨島第一中学校の場所」との方針を決定した。

基本的事項について、「統合の時期」は、令和9年度にはすべての学年で1クラスになる見込みであること、統合の準備に2年は必要であることから令和9年4月1日とした。

「統合校の名称及び校舎」について、学校の名称は生徒及び保護者の意向を十分に踏まえる必要があることから、準備組織の中で協議する。また、校舎は鴨島第一中学校校舎を使用し、空き教室の改修で対応する予定である。

「通学区域」は、鴨島地区全域となる。

「通学への対応」は、通学の負担が著しく増える生徒に対しては、スクールバスを念頭に必要な支援を検討する。通学路の安全対策も学校の協力も得ながら必要な措置を講じる。

「統合に向けた交流活動」は、新しい環境へのストレスを少しでも緩和し、両校の生徒が学校生活を円滑に開始できるよう、統合までの2年間、様々な交流活動に取り組む。

「準備組織」は、準備組織を設置し、教育計画や通学体制等の必要な事項について協議する。

(5) 統合準備委員会の体制（案）

教育計画や通学支援などの統合に向けて必要な事項を協議する「統合準備委員会」を設置し、「総務部会」、「学校運営部会」、「通学部会」、「PTA部会」を設ける。

令和7年4月の設置を目途に、本年度中に各部会の人選や、具体的な協議事項の洗い出しを行う予定である。

質疑応答

【以下質疑応答】

●上浦公民館

○鴨島東中学校の跡地の利活用は決まっているのか。

→現在においては未定。準備委員会で協議する。

●牛島公民館

○鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会の委員の中で鴨島東中学校の卒業生は何名いるのか。

→個々の経歴は把握していないが、鴨島東中学校区の小中学校のPTAや教職員、学校に関わっていただいている地域の方で構成している。

○今回の決定は住民の意見が反映されておらず、決定後に知らされたことは地域住民として納得できない。なぜ地域住民の意見をくみ取らないのか。

→地域の方々へのお知らせがこの時期になったことについてはお詫びする。この度の方針決定は、予測を上回る児童生徒数の減少が要因である。その影響を直接受けるのが生徒であるため、まずは生徒や保護者の方々への説明を優先した。子どもたちの将来を考えた上での決定であり、ご理解をいただくため、丁寧に説明をしていく。

○移住支援策や少子化対策について、市はどのように取り組んでいるのか。

→移住支援策としては、住宅取得に対する支援や地域おこし協力隊の受入など総合的に取り組んでおり、子育て支援として0歳から2歳児の保育料無償化や放課後児童クラブにおける長期休暇中の昼食の提供などを予定している。

○統合時、新しい制服や体操服に買い換えが必要なのか。必要なのであれば、購入支援はあるのか。

→何らかの支援が必要であると考えており、保護者のご意見を伺った上で、支援の内容を固めていく。

○スクールバスはどのようなルートで運行するのか。また、部活動をする生徒への配慮はあるのか。

→実際スクールバスを利用する生徒や保護者のご意見をアンケートなどで伺った上で、準備委員会の通学部会で運行ルートを決めていく。また、部活動への対応についても、個々の部が活動する場所も含めて、準備委員会で協議する。

○統合時に慣れ親しんだ教員と同時に異動できないのか。

→慣れ親しんだ教員と一緒に異動し、生徒が安心して新しい環境に入っていけるよう、県教育委員会に対し強く要望する。

○スクールバスの利用希望者が少なかったとしても、運行はするのか。

→利用希望者がいる限り、スクールバスは運行する予定である。

○山川・美郷地区におけるスクールバスはどのように運行しているのか。

→登校時は1便、下校時は部活動をしていない生徒、部活動をしている生徒に対し、2便を複数の停留所を経由し運行している。

○休日の部活動に対するスクールバスの運行はどうなるのか。

→現時点では詳細は未定であり、準備委員会の通学部会で内容を検討していく。

○山川・美郷地区における休日の部活動に対するスクールバスの運行はどうなっているのか。

→休日は運行していない。

○「鴨島第一中学校」という名称を使用することは抵抗がある。

→校名については、準備委員会で協議するため、その中でしっかりと議論していく。

○吉野川市内に野球ができる環境がないため、鴨島東中学校の跡地を軟式野球ができる環境に整備してほしい。

→跡地利用についても、準備委員会で協議することとしている。体育館も使用できる状態であるため、部活動での利用も含めて、検討していく。

○中学校の野球部は、鴨島第一中学校は単独、鴨島東中学校、市立川島中学校、山川中学校の3校が合同で活動しているが、この統合により、市立川島中学校と山川中学校にも影響が出てくるため、今後の部活動についても考えていかなければならない。市として県の運動部活動指導者人材バンクを活用するのも1つの方法だと思う。

→本市においては、男子バレーボール部が外部の指導者にご協力いただき、拠点校方式で活動している。今後は、同様に広域での活動が考えられるため、検討を進めていく。

また、部活動は、活動の中で切磋琢磨して、自分の目標や能力アップ、教員との信頼関係などを養うことができる教育における重要な要素であるため、今後も前向きに考えていく。

○鴨島東部踏切から北へ徳島鴨島線まで信号機が1つもなく、通学の際の横断が危険なので、信号機が必要ではないか。

→準備委員会でスクールバスや通学路の安全対策などを協議することになっているため、参考にさせていただく。

○鴨島東中学校区の人口を人為的に減少させておいて、鴨島東中学校の統合決定は納得できない。

→鴨島町の中心市街地でも人口は減っており、市全体として人口が減少している。

○鴨島東中学校区が廃れてしまったら市長が責任をとるということで良いか。

→任期中はしっかりと取り組んでいく。今回の統合決定については、責任や説明する義務を感じており、責任者の一人としてこの説明会に参加している。

●森山公民館

○本日は天候により参加者が少ない状況で、地域住民に対し、十分に説明がなされていると考えているのか。

→各小中学校、各地区の方々を対象に説明会を開催したが、一定の人数が集まったと認識している。今後設置する準備委員会で決まったことについては、様々な媒体で発信していこうと考えているが、要望があれば説明にお伺いする。また、直接教育委員会へメールや電話でご意見をいただければ、個別に対応させていただく。

○統合後鴨島東中学校の跡地利用はどうなるのか。体育館は、現在と同様に社会体育施設として利用できるのか。

→活用方針は、現時点では未定であり、準備委員会で協議することとなっている。また、統合後も体育館は、現在と同様に社会体育施設として利用可能である。

○吸収合併となると鴨島東中学校区の生徒にとっては差別感があるのではないか。

→教育委員会としてはこの度の統合について吸収という認識ではない。鴨島第一中学校を踏襲するのではなく、準備委員会の中で、教育計画などの内容については新しいものを創り上げていくこととしている。

○通学に国道や踏切を横断する必要があるため、通学路の安全対策が必要ではないか。
→個別に設けた準備委員会の通学部会において、スクールバスなどの通学支援だけではなく、通学路の点検を行い、危険な箇所には対策を講じていく。

○対等での統合であるならば、市役所周辺に新校舎を建設してはどうか。
→早急に統合することが望ましく、生徒への影響を考慮したため、鴨島第一中学校の場所に統合という形となった。

○災害など将来的な安全性を考えると、校舎を移転し、新築した方が良いのではないか。
→10年後、20年後を考えた小中学校のあり方についての計画を立てる必要がある。ご意見は、その計画の参考にさせていただく。

○昨年度の説明会では統合の話は全く出ていなかったのに、急に統合の決定がされた。その経緯は。
→昨年度に過去の予測より早く鴨島東中学校で1学年1クラスという状況になり、保護者の方々のご意見をお伺いするという目的で説明会を開催した。今年度に入り、さらに出生数が減っている状況であったため、鴨島東部地区小中学校のあり方検討委員会を設置し、提言を受け、その提言をもとに保護者アンケートを実施し、統合賛成が過半数となったことから、この度の方針決定となった。

○施設としては、鴨島東中学校の方が新しいのに、なぜ鴨島第一中学校の場所に統合するのか。
→既存の校舎を利用することにより統合時の生徒への影響が少ないこと、鴨島第一中学校の校舎でないと統合後のクラス数に対応できないことから、同校の校舎を利用することとした。また、両校とも改修により耐震基準を満たしている。

○鴨島東中学校区の生徒が統合に負い目を感じることはないよう、子どもたちが夢を持てるような情報発信ができないか。
→大切なのは教育の中身であり、両校のこれまでの取組や良いところを取り入れながら、一緒に新しい歴史・伝統を作っていくことを発信し、事前交流についてもそのことを踏まえ実施していくことが、鴨島東中学校区の子どもたちの不安を軽減させると考えている。
また、鴨島第一中学校の保護者も統合について注目していただいております、準備委員会のPTA部会などで意識の共有を図る必要があると考えています。

○保護者間で温度差を感じる。ともに新しい学校を創るということであれば、保護者に対し、鴨島町で1つになるというイメージで情報発信し、子どもたちがより良く成長できるような学校環境を作ってほしい。
→準備委員会のPTA部会等で教育委員会、学校、校長が連携し、意識を共有しながら保護者間へ浸透させていけるよう、また、統合して良かったと思ってもらえるような学校づくりに取り組んでいく。

- アンケートで統合に賛成と答えた保護者は、学校の規模が大きくなることで生じるデメリットを分かった上で答えているのか。アンケートを実施するまで保護者に対しどのような説明をしてきたのか。
→生徒数の減少により生じるデメリットを説明してきた。アンケートについては保護者それぞれの立場で意見は異なるが、反対の理由としては「通学距離の問題」、賛成の理由としては「たくさんの友達を作ってほしい」、「クラス替えがあってほしい」が多かった。
- 再編ありきで進めているのではないか。
→統合ありきで進めたわけではない。アンケートを実施した時点では、統合は決めておらず、統合賛成の意見が過半数を占めた結果となった。子どもたちの将来を考えたときに、どちらにしてもメリット・デメリットはあるが、統合した方が良いという結論になった。
- 鴨島東中学校の歴史保存のための資料館を作ってほしい。
→統合までの準備期間の中で、保存資料を整理する予定である。
- スクールバスの部活動への対応は。
→準備委員会の通学部会の中で、具体的な運行時間や経路について検討していく。現在運行している山川中学校では、登校時は1便、下校時は部活動をしていない生徒、部活動をしている生徒に対し、2便体制で運行している。
- 鴨島東中学校の今後の利活用計画はあるのか。
→現時点では未定であるが、立地も良いので、利活用についてはしっかりと考えていく。
- 鴨島第一中学校区と鴨島東中学校区の状況や雰囲気が違い過ぎて不安がある。きめ細やかな対応や指導ができるのか、子どもたちが楽しく通学できるのか。
→統合への不安に対しては、子どもたちが何でも相談できる体制づくりとしてスマートフォンのアプリの導入に向けて取り組んでいる。準備委員会の学校運営部会等においても、子どもたちが相談したり、安心できる場所づくりを検討していく。
- 休日の部活動に対するスクールバスの運行は。
→現在、山川中学校では平日のみの運行であるが、準備委員会の通学部会で、運行の時間帯や曜日を決めていくことになる。
- 鴨島東中学校は災害時の避難場所となっているが、統合後の管理はどうするのか。
→他の廃校施設についても避難所として機能は残っているため、鴨島東中学校も同様に災害時には避難所として機能する。
- 説明会の結果はどのように広報するのか。
→会議録は市ホームページで公表するとともに、インターネット環境がない方々に対しても説明会の内容をお伝えできるよう、広報の方法について検討する。
- 統合準備委員会に危機管理や人権の専門家にも入っていただき、広い視野での検討

がなされるべきだと考えるが、いかがか。

→学識経験者の知見も必要であることから、そのことも踏まえ人選を進めていく。
また、準備委員会において協議するテーマに応じて、関係する方を臨時的に各部会に来ていただこうと考えている。

○統合に向けて様々なことが準備委員会の中で決定され、意見を言える機会はないのか。

→正式には教育委員会が決定し、準備委員会は協議の場という位置付けである。準備委員会での協議事項は、「準備委員会だより」のような形で、皆様にお知らせしていくとともに、必要に応じて保護者や地域の方々にアンケートの実施などによりご意見をお伺いする。

○準備委員会のスケジュールは。

→教職員やP T Aが委員の中心であり、人事異動や役員交代を考慮すると令和7年4月に正式に立ち上げたいと考えているが、今年度中に人選や協議事項の洗い出しを実施する。

○準備委員会の委員は、両校の関係者でバランスがとれるよう公平に人選してほしい。

→両校だけではなく、小学校の関係者にも委員になっていただく予定としている。

●吉野川市役所

○令和6年アンケート対象者数が令和5年のアンケート対象者数と比較し、200名減っているのはなぜか。また回答率が低いのではないか。

→令和5年のアンケートでは、子ども1人につき1回の回答を可能としたことにより同じ内容の回答が散見されたことから、子どもがいるご家庭1家庭につき原則1回の回答に変更した結果である。

回答率については、統合に影響のない中学生の保護者と中学校進学までに期間がある未就学児の保護者の回答率が低かったが、小学校高学年の保護者からは7割を超える方からの回答があった。

○新聞報道では、鴨島東中学校が鴨島第一中学校に吸収されるという印象を受けたが、統合の形についてどのように考えているのか。

→準備委員会の学校運営部会の中で、統合校の新たな教育計画や取組については、一から協議することとなっている。両校にはそれぞれ伝統やこれまでの取組があるため、両校が持ち寄って統合校においてより良いものになるよう協議・検討していく。教育委員会としては、吸収という認識は持っていない。

○両校の生徒の通学時間が公平になるような通学支援をお願いしたい。

→準備委員会の通学部会にP T Aの方々にも参加していただく予定であるため、保護者の方々のご意見も伺いながら、通学支援の内容を考えていく。

現在スクールバスを運行している山川中学校では、登校時は1便、下校時は部活動をしていない生徒、部活動をしている生徒に対し、2便体制で運行しているため、これも参考にしながら、鴨島地区の運行体制も検討する。

○大きい学校ではなじめない子どももいる。小規模校の存在意義があるのではないか。

→学級数の減少により教員の配置に影響が出てくることが1つの判断材料となった

が、メリット・デメリット両面から検討した中で、鴨島東中学校存続よりも統合した方が子どもたちにとってより良い環境になるのではないかという結論に至った。

○準備委員会の通学部会で決まった方針等の公表はどのように行われるのか。

→「準備委員会だより」のような形で、市ホームページや学校を通じてのメール配信、広報よしのがわの紙面などでお知らせしていこうと考えている。

○鴨島東中学校が災害時の避難場所となっているが、統合後の利活用の予定は。

→現時点では未定であるが、準備委員会の中で検討していく。他の廃校施設では、一部民間事業者に貸し付けている学校もあるが、避難所として指定されており、災害時には明け渡していただくことになる。

○統合することで生徒や教職員、鴨島東中学校に関係する人がいなくなって寂しくなる。鴨島東中学校が復活することはあるのか。少人数の学校を希望する子どもたちが通えるような学校や分校として残して欲しい。

→市内全体で年間の出生数が200人を切っており、年間30人ペースで出生数が減ってきているのが現状。20年後、30年後の学校のあり方を検討した上での統合決定であるため、ご理解いただきたい。